

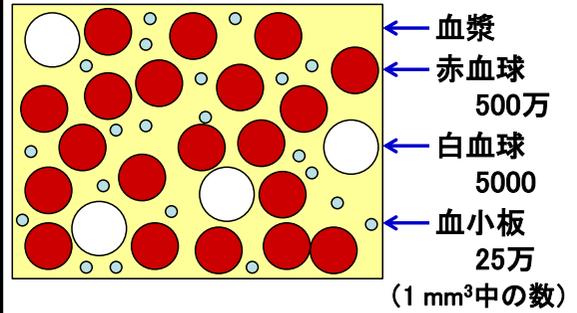
平成27年度岡山県献血推進協議会

血液事業の概要

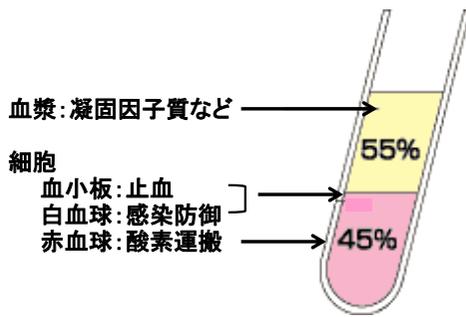


岡山県赤十字血液センター
所長 池田 和真

血液



血液 = 血漿 + 細胞



輸血用血液の種類

赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
出血、赤血球の機能低下による酸素欠乏	血液凝固因子の欠乏による出血	血小板の減少や機能低下による出血
有効期間: 21日間	有効期間: 1年間	有効期間: 4日間



●血液の有効期間は非常に短く、継続的な献血が必要とされています。

血漿分画製剤

急な出血、やけどの治療に



重症感染症の患者さんに



感染症の予防や治療に

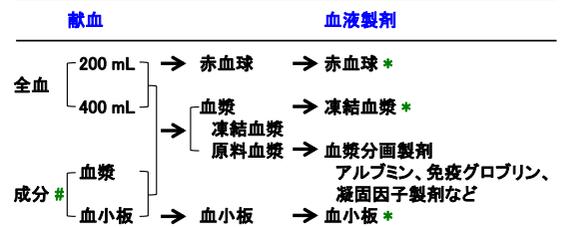


血友病の患者さんに



血漿を分画・精製した各種「タンパク質」製剤

献血と血液製剤



* 成分献血は、固定施設(血液センター及び献血ルームのみ)

* 輸血用血液製剤;原則として、ABO同型を用いる

血液製剤に関する法律

血液法

安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律

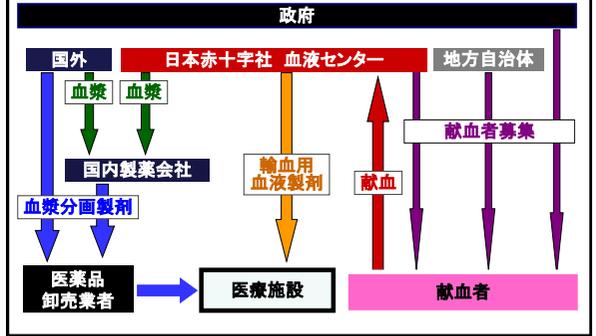
安全性の確保
国内自給の原則
安定供給の確保
適正使用の推進
公正の確保と透明性の向上

医薬品医療機器等法

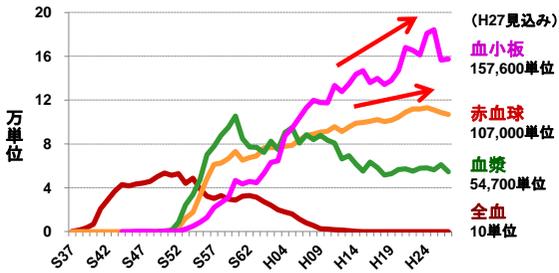
医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律

生物由来製品・特定生物由来製品の特性に応じた安全対策

日本の血液事業

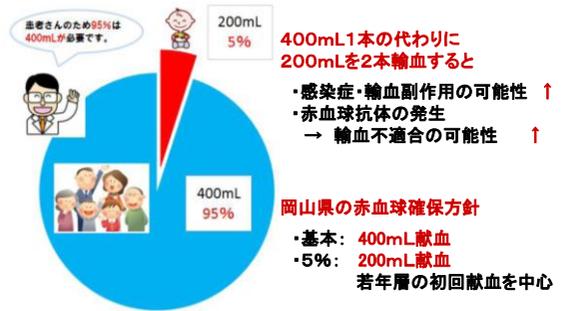


岡山県での輸血用血液の使用量

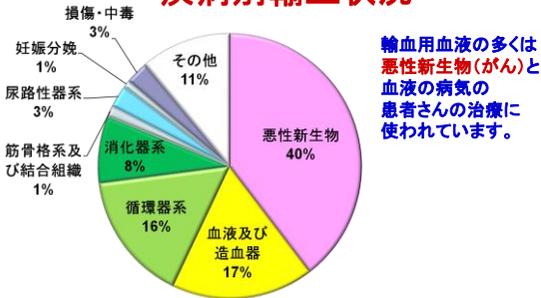


昭和50年代以後、血小板、赤血球の使用量は増加
ここ数年は傾向が変化している可能性

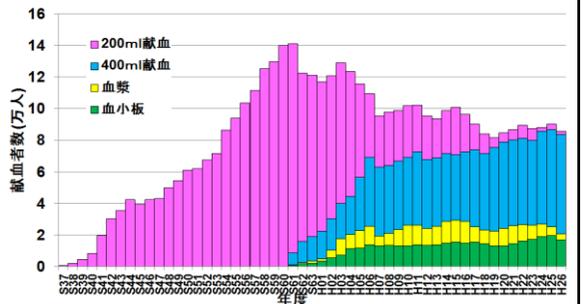
患者さんが必要とする赤血球の割合



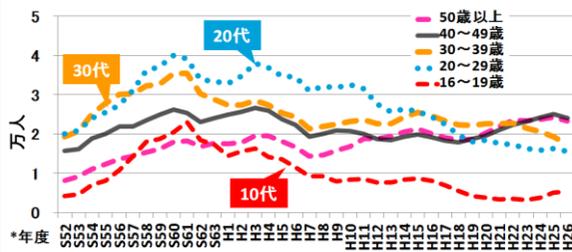
疾病別輸血状況



岡山県の総献血者数の推移

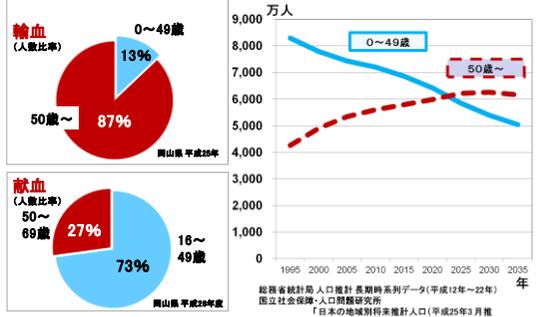


岡山県の年代別献血者数の推移



H26: 20代: S60に比べ、39.0%に減少した。
 10代: S61に比べ、26.5%に減少したが、H24以降徐々に増加している。
 30代: S61に比べ、48.9%に減少した。近年さらに減少傾向にある。

年齢別輸血・献血(岡山) 人口推移と推計(全国)



平成26年度 都道府県別需給状況(赤血球)

都道府県	献血人数	献血量	赤血球供給量(単位)	献血/供給(%)
岡山県	20,304	1,200,000	1,000,000	100%
全国平均	2,704	1,000,000	1,000,000	100%

●岡山県は人口あたりの献血者数、献血量が多いが、全国でも有数の医療費であるため血液の使用量が多い。平成26年度は岡山県の必要を確保できた。
 ※単位には10%が必要

全国と岡山県の血液事業の状況

全国
 少子高齢化の進展により、若年層の献血の減少と高齢化による需要と供給のバランスが崩れることが懸念される。

岡山県
 全国平均と比較して、人口あたりの献血者や献血量は多いが、人口あたりの輸血用血液製剤使用量も多い。
 10代の献血者は増加の兆しが見えてきたが、20代、30代の献血者の増加が望まれる。



平成27年度の献血の推進に関する計画①

平成27年3月27日、厚生労働省告示第104号

第2節

1 献血に関する普及啓発活動の実施(抜粋)

都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、地域の実情に応じ、対象となる年齢層への啓発、献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病氣や怪我のために輸血を受けた患者や、その家族の声を伝えること等により、血液製剤が患者の医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血の正しい知識や必要性を啓発し、又は協力することが必要である。

平成27年度の献血の推進に関する計画②

平成27年3月27日、厚生労働省告示第104号

第3節

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

⑥200ミリリットル全血採血の在り方について

国、都道府県、市町村及び採血事業者は、血液製剤の安全性、製造効率、医療機関の需要の観点から、献血を推進する上では、400ミリリットル全血採血を基本として行う必要がある。
 ・しかしながら、将来の献血基盤の確保という観点からは、若年層の献血推進が非常に重要であることから、若年層に対しては、学校と連携して「献血セミナー」を実施する等、周知啓発の取組を積極的に行う。特に高校生等の献血時には、400ミリリットル全血採血に献血者が不安がある場合は200ミリリットル全血採血を推進するなど、出来る限り献血を経験してもらうことが重要である。

平成27年度献血の推進に関する計画

・都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関、ボランティア組織等から幅広く参加者を募って、**献血推進協議会**を設置し、定期的に開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。

・都道府県及び市町村は、**献血推進協議会**を活用し、採血事業者、血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

厚生労働省

献血にご協力いただく各種団体



- ・ポスター、チラシによる周知活動
- ・献血のお声掛け



渉外活動の充実

- ・県、市町村担当者との同行訪問
- ・事業所、協力団体訪問回数の増
 - 人間関係の構築
 - 献血者の目標数の同意
 - 自発的な献血者増加対策(実施時期、時間、周知方法)

血液センターの活動

- ・固定施設の採血強化
- ・会場の周辺へ呼びかけ(事前、当日)
- ・ハガキ、電話、メールでの献血依頼

血液製剤の
安定供給の確保

需要の増減に応じた柔軟な体制

キャンペーン・イベント(幅広い世代)

- ・赤十字出前講座 総件数85件7,556名(平成26年度)
- ・ライオンズクラブ(連携協定締結、周年記念式典、協力形態の多様化)
- ・ももたろうキャンペーン(学生ボランティア主催、LC共催)
- ・愛の血液助け合い運動月間オープニングセレモニー
- ・献血カラーキャンペーン
- ・夏休み親子見学会
- ・愛の血液助け合い運動月間感謝のつどい
- ・中国四国学生統一キャンペーン
- ・キッズ献血
- ・全国学生クリスマス献血キャンペーン
- ・はたちの献血キャンペーン
- ・いのちと献血俳句コンテスト
- ・献血ポスターコンテスト
- ・血液センター愛称募集



プレスリリースによる県民への周知

テレビ、ラジオ、新聞、WebNews他

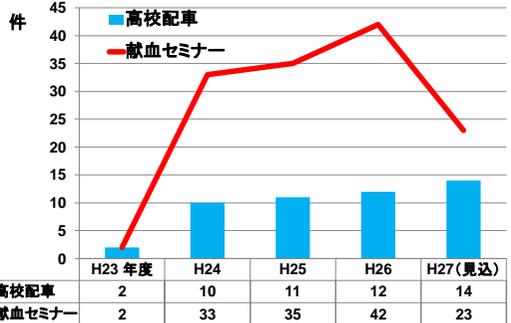
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 12月末現在
報道回数	55件	89件	123件	70件

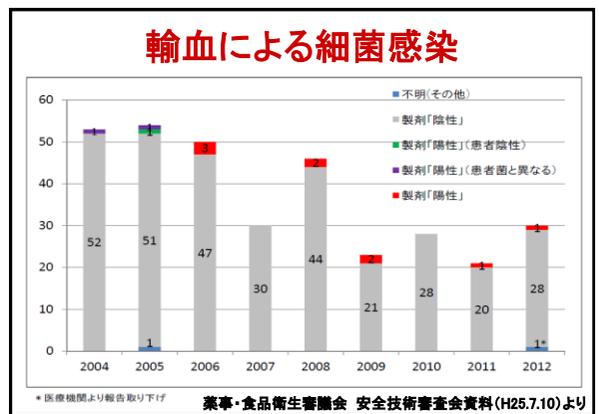
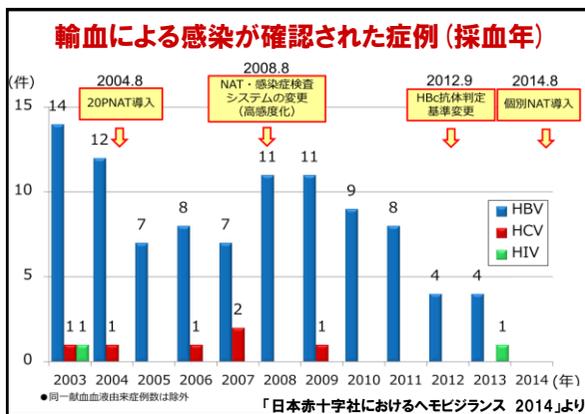
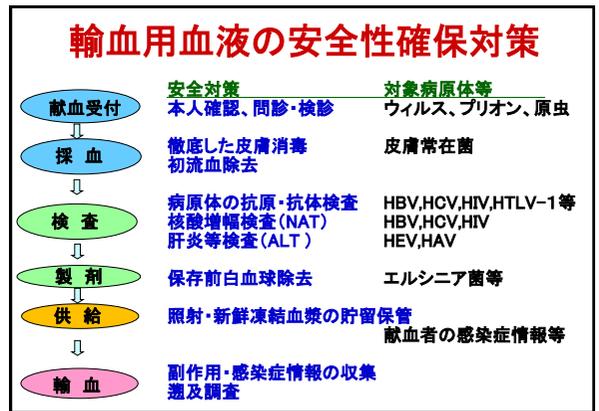
プレスリリース
(平成27年度12月末)

32回



献血セミナー・高校献血実施件数





- ### 献血をご遠慮頂く方
- ・3日以内に出血を伴う歯科治療(抜歯、歯石除去)を受けた方
 - ・4週間以内に海外から帰国(入国)した方
 - ・1ヶ月以内にピアスの穴をあけた方
 - ・エイズ検査が目的の方
 - ・6ヶ月以内に下記に該当する方
 - (a) 不特定の異性または新たな異性と性的接触があった
 - (b) 男性同士の性的接触があった
 - (c) 麻薬、覚せい剤を使用した
 - (d) 上記(a)~(c)に該当する人と性的接触をもった
 - ・輸血(自己血を除く)や臓器移植を受けた方
 - ・ヒト由来プラセンタ注射を使用した方
 - ・梅毒、C型肝炎、マラリア、シャーガス病にかかった方

